

(様式1)

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」実績報告書（3年次）

1 学校名等

学 校 名	福知山市立夜久野小学校							校長名	山添 麻矢	
所 在 地	〒629-1313 京都府福知山市夜久野町高内26番地 電話 0773-37-0047 FAX 0773-37-1478									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	1	1	1	1	1	1	1	7	11	
児 童 数	7	18	11	14	12	13	2	77		
連 携 先 (文化財所有者等)	夜久野地域公民館 (0773-37-1188) やくの木と漆の館 (0773-38-9226) 額田のまつり代表							※校長・副校長・教頭を含む		

2 研究校の概要（児童の実態、学力状況(分析)、研究体制等）

本校は福知山市の北西部に位置し、平成25年4月に、施設一体型の小中一貫教育校としてスタートし、本年度で開校11年目を迎えた。現在全校児童生徒数127名（児童数77名、生徒数50名）、学級数は1から9年生まで単学級で、特別支援学級を合わせると10学級である。

児童の実態としては、全体的に落ち着いている。学習活動や清掃活動など、日常的に活動に対して真面目に取り組める児童が多い。また、開校当時からICT機器を授業に取り入れ活用していたので、ICT機器を使った学習に対しては、スムーズに導入ができています。しかし、少人数で固定した人間関係に悩む場面や、自分の考えを十分に周りに伝えられない様子が見られたりする。

全国学力・学習状況調査（6年）、京都府学力・学習状況調査（4・5・6年）、学力テスト（全学年）の結果等では、府平均を若干下回る教科もあるものの、おおむね府平均もしくは府平均以上の数値を示している。基礎的・基本的な学力は身に付いている児童が多い。ただし、個別に児童を見ていくと、学級ごとに個別に支援を要する児童もあるなど、課題も多く見られる。

3 主な研究活動（時期や内容等）

(1) 総合的な学習の時間に関わる取組

本年度は、昨年度の実践を基に総合的な学習の時間（低学年は生活科）の年間計画の見直しを進め、PBLを学習過程にどのように落とし込んでいくかについて研究を進めた。特に、課題設定については慎重に検討し、課題設定が学習の流れにとってどうであったか検証することに重点を置き取り組んだ。

ア 6年研究授業（6/21・11/15）

夜久野町の無形文化財「額田のダシ行事」を「20年後に受け継ぐにはどうしたらよいか」という課題を、振興会の方の願い（問い）から設定し、その解決策を検討する学習を進めてきた。考えを出し合っては何度も組み立て直し、なんとか最適解を出そうとする児童への支



援に努めた。しかし、生み出した解決策を実社会でどのように生かしていけるのかについて考える中で、今後、地域との関わりの中で共通の見通しをもちながら検証していくことの重要性と困難さに直面した。



イ 1年生活科

生活科「学校大好きともだち大好き」の単元名で、学校生活を支えている人々との関わりや、学校施設の様子について学び、学校で学んでいる児童生徒との関わりを深めたり、広げたりする活動を行った。

特に春の遠足は1年生～9年生の児童生徒が、異年齢集団のグループで夜久野の地域に出かけ、地域の良さや自然に触れる体験活動を行っている。

また、こども園との関わりが年間に3回あり、次年度の新入生を迎えるにあたり、1年生で学んだことを伝えたり、こども園の子どもたちに学校のことを教えたりする中で、交流を深めている。

ウ 2年生活科

生活科「みんなで夜久野たんけんたい」の単元名で、地域の様々な施設を訪問したり、自分との関わりを見付けたりする活動を行った。様々な施設があり、そこには地域の人々がいることに気づき、地域の施設や人に親しみを持つように活動を進めた。



具体的な施設としては、中夜久野郵便局、下夜久野駐在所、夜久野ふれあいプラザ、夜久野農匠の里、ドライブイン夜久野、宮カフェに行き、そこで働く人にインタビューしたり、施設の役割を学んだりした。

エ 3年総合的な学習の時間

総合的な学習「夜久野調査隊」として、地域の特産物を調べたり、育てたりすることで、町の特産物や良さに触れ、また、地域の方々との触れ合いを通して、ふるさとを大切にしようとする心を養う活動を行った。



具体的な活動は、夜久野の農産物である「ぶどう」「すいか」「黒豆」「そば」「うるし」について、地域の方に話を聞いたり、育てる体験をしたりした。実際にそば打ちや漆の木の植樹をするなどの貴重な体験をとおして、素晴らしい文化財があることに改めて気付くことができた。

オ 4年総合的な学習の時間

総合的な学習「受け継ごう伝統文化」として、全国や夜久野で行われている祭りについて調べ、自分の地域で受け継がれてきた伝統文化のよさに気づくことができるような学習を行った。中でも、夜久野に受け継がれている祭りや、昔話についてくわしく調べ、地域の方から話を聞いたり、祭りに参加したりする体験を通して、地域の方の願いや、語り継がれてきた思いや歴史を感じることができた。



カ 5年総合的な学習の時間

総合的な学習「夜久野の文化財を探せ！」として、地域の無形文化財・有形文化財を調べ、自分のふるさとの良さを知り、ふるさとを愛する心を養う学習を行った。また、高学年は学習方法として課題解決学習を行い、主体的に学習に参加し、試行錯誤しながら納得解を見出そうとすることの大切さを感じることができた。

具体的な活動は、高倉神社、瑞林寺山門、東光寺、宮垣薬師堂などの無形文化財・有形文化財についてしらべ、「多くの人に知ってもらうにはどうすればよいだろう」というミッションのもと、考え、まとめたことを発表する活動を行った。

(2) 各教科でのPBLを取り入れた授業研究

主体的・対話的で深い学びを実現するために、各教科でのPBLを取り入れた授業研究も同時に進めた。これによって、小中一体となってPBLについて議論することができ、研究協議を進めることもできた。

ア 8年(中学2年)研究授業(5/24)

国語科で小論文を作成した。学習により解決できる問題を見付け、マッピング等を用いて課題分析を行った。その上で仮説を設けて研究し、その過程を1200字の文章にまとめた。

授業の自己評価より：「大きすぎても小さすぎてもダメで、問題を作るのに迷ってしまう難しさが少しわかりました。しかし、ひとつの問題から広げていけば、違う問題が見つかったり、その問題を解決する過程で出てきた結果を、問題にすることができたりするとわかりました。」「自分が考えないといけない方向性が固まる授業だと感じたし、人に聞くことで考えが深まりました。」

なお、この授業で作成した小論文の一編が、第11回京都府中学生小論文グランプリで優秀賞に選ばれた。



イ 各教科でのPBLの手法を生かした授業の研究(ちょこっと研修)

教員一人一回ずつ、PBLの手法を生かした授業を公開し、全教職員で少しの時間でも見合う、「ちょこっと研修」を1学期から開始した。教科によって実現方法には大きな違いがあるが、PBLの過程を意識して、単元全体を通して課題解決に取り組むことが大切であり、各教科の中でどのように具体化したのか分かるようにすることが、今後の研究で重要であるとのまとめができた。

4 今年度の研究の成果と検証(児童、教職員、学校、家庭・地域社会の変容等)

(1) 6年生の変容

非認知能力を問うアンケートで、5年生次の3月と6年生次の1月を比較すると、ほとんどの項目で良い結果が得られた。

- PBLの手法に沿って学習を進めることで、見通しをもって課題に向き合うことができた。
- 課題に沿って友達と一緒に粘り強く話し合ったり、意見をまとめたりすることができた。
- 夜久野に対する郷土愛が高まった。地域の文化財に目を向けたりする姿や地域行事への参加率が上がった。

(2) 教職員の変容

- ・単元を貫く問いの設定でゴールが明確化され、授業が進めやすくなった。
- ・子どもたちが主体的に解決していく課題の提示ができるようになった。
- ・生徒の活動を予想し仕掛けを考えることが楽しかった。

などの声が、校内研究会等であった。また、研究発表会では積極的に自分の実践を交流して回る姿から、手応えが感じられた。

5 今年度の課題

- (1) 地域連携の難しさがある。校内において地域コーディネーターをしっかりと位置付け、担任の負担を軽減する。また、ゲストティーチャーとの調整、学年間の調整などを行うことで、スムーズな学習活動が進められるようにしていく必要がある。
- (2) PBLの手法を意識して課題解決をしていく課程で、子どもたちの思いを大事にしすぎると本題から離れてしまうことがあるので、軌道修正をどの程度まで行うかが難しい。
- (3) 検証に時間がかかるため、時間の確保が難しかった。単元計画を明確にする必要がある。
- (4) PBLの手法を活かしやすい教科と難しい教科がある。また、単元によっても変わることがあるので、単元指導の時間やポイントなどの見通しを十分持つ必要がある。

6 事業終了後の研究構想

認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ教育により、これからの予測困難な未来社会をたくましく生きる人材の育成を目指す。

- (1) 「ふるさと未来学」(総合的な学習の時間)の新カリキュラムによる本格実施と学園基礎力の育成をめざした取組を一体的に進めていく。今回の研究を通じて、学習計画を見直し、PBLの手法を生かした授業に展開できるようになった。次年度以降に本格実施としたい。
- (2) 地域人材の確保と連携を担う地域コーディネーターの位置付けをはっきりとさせていく。
- (3) 各教科でのPBLの手法を使った学習展開の実践・深化をめざす。今後も継続して実践を積み重ねることを通して統一した指導を行い、学習に向かう姿勢(学習意欲)を高めることが、学力の向上につながると考えている。



夜久野学園 研究発表会

資料集

1 公開授業 学習指導案

1年生	生活科	学習指導案	太田 孝樹	1～2
2年生	算数科	学習指導案	牧野 浩明	3～4
3年生	総合的な学習の時間	学習指導案	西野 俊雄	5～6
4年生	社会科	学習指導案	山田 智子	7～8
あおぞら学級	生活単元	学習指導案	大町 しのぶ	9～10
5年生	家庭科	学習指導案	松村 華	11～12
6年生	総合的な学習の時間	学習指導案	杉山 綾	13～14
7年生	社会科	学習指導案	片山 裕樹	15～16
8年生	理科	学習指導案	中場 圭佑	17～18
9年生	数学科	学習指導案	中谷 新一郎	19～20

2 学習指導案例

9年生	国語科	学習指導案	大槻 裕彦	21～22
7年生	音楽科	学習指導案	藤田 遥名	23～24
7年生	保健体育科	学習指導案	中林 斉二	25～26
8年生	英語科	学習指導案	畠中 美奈子	27～28

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

生活科 学習指導案

第1学年 令和6年2月2日 第5校時（1年教室） 指導者：太田 孝樹

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名	もうすぐ2ねんせい	
単元目標	入学してからの1年間を振り返ったり、年長児との関わりを深めたりする活動を通して、1年生の自分と今の自分を比べたり、支えてくれた人々との関係を見つけたりする。 また、自分自身の成長や、役割が増えたことに気付くとともに、支えてくれた人への感謝の気持ちと、進級への期待感や意欲をもって生活しようとするができるようにする。	
評価規準	知識・技能	・1年間を振り返ったり、年長児と関わりを深めたりする活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさ、自分が大きくなったことや、自分でできるようになったことなどに気付いている。
	思考・判断・表現	・1年間を振り返ったり、年長児と関わりを深めたりする活動を通して、1年前の自分と今の自分を比べたり、支えてくれた人々との関係を見付けたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・1年間を振り返ったり、年長児と関わりを深めたりする活動を通して、今までの成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、今後の成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。
単元指導計画	<p>〈全18時間〉</p> <p>あたらしい1ねんせいをしょうたいしよう</p> <p>第1時(本時) 課題設定・仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度入学してくる1年生のために、自分たちにできることを話し合う。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">問い:あたらしい1ねんせいが どうしたら よろこんでくれるか かんがえよう。</p> <p>第2～5時 情報収集・課題分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合った内容を2年生に伝え、さらにどんな工夫があると良いと思うかインタビューし、アドバイスをもらう。 ・新しい1年生を迎える準備をする。 <p>第6・7時 アウトプット・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい1年生を招待して、一緒に活動する。 ・活動をふり返る。 <p>しょうたいしたことを はなしあおう</p> <p>第8時 課題設定・仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい1年生と関わって感じたことや気付いたことを話し合う。 <p>第9時 情報収集・課題分析・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・招待した活動を通して、自分たちができるようになったことをふり返る。 <p>1ねんかんを ふりかえろう</p> <p>第10時 課題設定・仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画などの手がかりを基に、1年間の出来事をふり返る。 <p>第11時 情報収集・課題分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かきためてきた記録カードや作品を整理してまとめ、1年間の成長をふり返る。 <p>第12時 アウトプット・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめたものを紹介し合い、1年間の成長をふり返る。 <p>ありがとう わたしたちの きょうしつ</p> <p>第13時 課題設定・仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度入学してくる1年生のために、自分たちにできることを話し合う。 <p>第14～17時 情報収集・課題分析・アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合った内容を2年生に伝え、さらにどんな工夫があると良いと思うかインタビューし、アドバイスをもらう。 ・新しい1年生のために教室の準備をする。 <p>第18時 検証・課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備した教室内を見て、改めて1年間のことをふり返る。 ・単元の振り返りを行い、2年生になって取り組んでみたいことなどについて話し合う。 	

本時の学習指導について

1 本時の目標:

新しい1年生がどうしたら喜んでくれるか考えることができる。

2 参観・研究のポイント

- (1) 児童の思考を促し、主体的に話し合えるような手立てができています。
- (2) 「どうしたら喜んでくれるか」という課題に対して、「こういうことをすれば喜んでくれるのではないか」という仮説構築ができる。

3 本時の展開(1/18)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 課題設定 (本時のめあて)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前や入学直後の気持ちを振り返る。 ・新しい1年生が学校に体験入学することを知る。 ・めあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真などを映写して、思い出させる。 ・新しい1年生が体験入学するとき、どんな気持ちになって欲しいかを考えさせる。 ・全員で読むことで、めあての共通理解を図る。 	タブレット 大型テレビ 掲示	
本時のねらい: あたらしい1ねんせい が どうしたら よろこんでくれるか かんがえよう。				
2 仮説構築	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に自分たちが体験入学した時のことや、今年度新しい1年生と交流したことなどを思い出す。 ・一緒に遊びたいことや、学校について教えたことを考える。 ・考えたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分たちが体験入学した時、してもらって嬉しかったこと」「新しい1年生にさつまいもの様子を見せたり、一緒に遊んだりしたこと」「2年生からおもちゃランドに招待してもらい、新しい1年生と一緒に楽しんだこと」等が挙げた場合、映写して思い出させる。 ・考えをワークシートに書かせてから話し合うことで、伝えやすくする。 ・個人で考えさせた後、ペアやグループで話し合わせる。 ・児童が自分の考えを述べるときは理由を付すように助言する。 ・「教える」「遊ぶ」「プレゼント」などそれぞれの内容について考えを板書にまとめ、全体計画につなげる。 	タブレット 大型テレビ 掲示 ワークシート ワークシート タブレット	新しい1年生がどうしたら喜んでくれるか、考えることができる。【思考・判断・表現】 <発言・ワークシート> <十分満足できる状況> 自ら進んで案を立てたり、友達の意見を聞いたりして、よりよい取組を考えている。 <努力を要する児童への支援> 友達の意見を参考にして、取組を考えられるようにする。
3 ふり返し	<ul style="list-style-type: none"> ・ふり返しをする。 ・次時の活動について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書かせ、発表させる。 ・次時への期待がもてるよう、「話し合った内容を2年生に伝え、さらにどんな工夫があると良いと思うか尋ね、アドバイスをもらう」ことを伝える。 	ワークシート	

4 めざすふり返し

あたらしい1ねんせいにおしえたり、あそんだりすることをかんがえられてうれしかった。がんばってじゅんびして、あたらしい1ねんせいをたのしませたい。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

算数科 学習指導案

第2学年 令和6年2月2日 第5校時（2年教室） 指導者：牧野 浩明

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名		九九のきまり
単元目標		かけ算九九について、九九の表の考察や九九の範囲をこえる乗法の計算の仕方を考えることを通して、乗法に関して成り立つ性質や九九の表のきまりを見いだしてかけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。
評価規準	知識・技能	・九九の表を使って、同じ答えのかけ算をみつけたり、乗法に関して成り立つ性質を理解したりすることができる。
	思考・判断・表現	・九九の表の考察を通して、いろいろなきまりをみつけることができる。 ・簡単な2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	・九九の表やかけ算のきまりに関心をもち、進んできまりをみつけたり、活用したりしようとする。
単元指導計画	〈全7時間〉	
	第1時【九九の表を完成させ、九九のきまりについて調べるために、表の見方について考える。】 情報収集	
	<ul style="list-style-type: none"> 九九の表を作成する。 九九の表を見方について分かったことを交流する。 	
	第2時【九九の表を使って、乗数と積の関係について調べる。】 情報収集・課題分析	
	<ul style="list-style-type: none"> 九九の表から、乗数が1ふえると、積はどう変化していくか、2の段から9の段まで調べ、交流する。 	
	第3時【九九の表を使って、乗法の交換法則について調べる。】 課題設定	
	<ul style="list-style-type: none"> 九九で答えが同じになる式を調べ、被乗数と乗数との関係に目を向けてきまりを考え、交流する。 	
	第4時【九九の表を使って、同じ答えがいくつあるかを調べる。】 課題設定・仮説構築	
<ul style="list-style-type: none"> 九九の表から同じ答えになるものを調べ、表の位置関係からきまりについて考え、交流する。 		
第5時【九九の表を使って、2つの段の答えの和や差について調べる。】 仮説構築		
<ul style="list-style-type: none"> 九九の表から、2つの段の答えをたしたり、ひいたりすると、どんな答えになっているかを調べ、きまりを考える。 		
第6時【簡単な1位数×2位数の答えの求め方を考える。】 検証・アウトプット		
<ul style="list-style-type: none"> 図やかけ算の表を使って、1位数×2位数の答えの求め方を考え、交流する。 		
第7時【簡単な2位数×1位数の答えの求め方を考える。(本時)】 検証・アウトプット		
<ul style="list-style-type: none"> 図やかけ算の表を使って、2位数×1位数の答えの求め方を考え、交流する。 		
問い：12×4の答えの求め方をいろいろな方法で考えよう。		

本時の学習指導について

1 本時の目標

簡単な2位数×1位数の答えの求め方を考える。

2 参観・研究のポイント

図や九九の表を活用し、前時までに学習したことを活用しながら課題を解決している。

3 本時の展開 (7/7)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 前時までのふりかえり 2 本時のめあての確認	・九九のきまりについて、既習事項を確認する。	・掲示物を作成し、それを見ながら確認させる。		
本時のめあて：12×4の答えの求め方を考えよう。				
3 課題分析・仮説構築	・12×4の答えの求め方について考える。	・りんごの絵や九九の表を活用し考えることをおさえる。	ワークシート 掲示物	九九を広げて、かけ算答えを求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈ワークシート・自己評価〉 〈十分満足できる状況〉 答えの求め方を図や表を使って説明できる。 〈努力を要する生徒への支援〉 九九の表を横に見て、答えがどのように変わっていくかに着目させる。
4 情報収集	・自分で考えたことが正しいかペアやグループで交流する。	・ワークシートを使いながら、分かりやすく発表できるようにすることをおさえる。	ワークシート	
5 検証	・確かめたことを発表する。 ・適用題で練習する。	・12×4の答えをどうしたら九九のきまり等を使って求められるかをおさえてから、考えさせる。 ・九九のきまりや図を使って説明できるようにさせる。 ・練習問題でも、答えの求め方が説明できるようにさせる。	ワークシート ワークシート	
6 ふり返り	・自己評価を書く。	・時間内で手応えのあった具体的事項を書かせる。		

4 めざすふり返り

・九九の表にない式でも、九九のきまりを使って答えを求めることができることがわかりました。

研究テーマ

地域と共にグローバル

ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てるための課題解決型学習の創造

総合的な学習の時間 学習指導案

第3学年 令和6年2月2日(金) 第5校時(3年教室) 指導者: 西野 俊雄

単元(題材)の概要

単元(題材)名・教材名		夜久野 調査隊
単元目標		友達や地域の方々との触れ合いを通して、相互理解を深めると共に、ふるさとを大切にしようとする心情を養う。また、夜久野の特産物を調べたり育てたりすることで、町のよさに触れる。
評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 夜久野には様々な特産物があることを理解することができる。 課題の解決に向けて、多様な方法で情報を収集することができる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 夜久野の特産物に関する課題を発見し設定している。 必要な資料や情報を取捨選択して、内容を整理・分析してまとめ、課題解決に向けて考えている。 調査結果や探究内容について、伝えるための効果的な手段を選択して表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 夜久野のまちの良さや特色に関心をもち、学習を振り返ったり見直したりして、学習課題を追究・解決しようとしている。 自分たちが「夜久野の特産物」を多くの人に伝えるためにどうすればよいかを進んで考え、課題解決に向けて取り組もうとしている。
単元指導計画	〈全 60 時間〉	
	問い:「夜久野の特産物の良さを多くの人に伝えるには、どうしたらいいだろうか。」	
	第1次(15時間) 【夜久野の特産物について知ろう。】情報収集・課題設定・アウトプット	
	<ul style="list-style-type: none"> 自分達の生活を振り返ったり、家族にインタビューをしたりして夜久野の特産物について考えを広げる。 聞いた話から、疑問や気になったことを出し合う。 地域の方から夜久野の「農業」や「そば」について話を聞く。 夜久野の特産物の良さを話し合い、まとめる。 	
第2次(25時間) 【夜久野の特産物について詳しく知ろう。】情報収集・課題分析・仮説構築・アウトプット		
<ul style="list-style-type: none"> 漆に関わる人から、漆についての話を聞く。 漆ぬり体験や植樹体験を通して理解を深める。 そばについて話を聞いたり、そば打ち体験をしたりして、理解を深める。 夜久野の特産物の良さを話し合い、まとめる。 まとめた内容を効果的に伝えるために、どのように工夫するのかを考える。 文化祭で、夜久野の特産物の良さについて伝える。 		
第3次(20時間) 【夜久野の特産物の良さを伝えよう。】課題分析・仮説構築・アウトプット・検証		
<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の発表を振り返り、成果と課題を話し合う。 他校との交流学习で、夜久野の特産物の良さについて伝えるという課題を立てる。 まとめた内容を効果的に伝えるために、どのように工夫するのかを考える。(本時) 交流学习で、夜久野の良さについて伝える。 交流会のふりかえりをする。 単元のまとめをする。 		

本時の学習指導について

- 1 本時の目標
「夜久野のよさ」を伝えるための工夫をすることができる。
- 2 参観・研究のポイント
・夜久野のよさを伝える方法で実現可能な工夫を考えようとしている。
- 3 本時の展開 (5/20)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準 <評価の観点> <評価方法>
1 既習事項の確認	・これまでの活動を確認する。	○前時までに決まった内容を確認する。	掲示 タブレット 大型テレビ	「夜久野の特産物」を多くの人に伝えるために効果的な手段を考えている。 <思考・判断・表現> <発言・行動観察>
2 本時のめあて	本時のめあてを知る。	・オンラインでの対面交流を行うことを確認する。		
本時のねらい：「夜久野のよさ」を伝えるための工夫を考えよう。				
3 課題分析 ・アウトプット	・夜久野の良さを伝える方法を考える。	○自分の考えをまとめていく。	タブレット 写真 大型テレビ	【十分に満足できる状況】 自ら進んで解決策を考えたり、友達の意見を聞いたりして、よりよい方法を考えている。 【支援を要する児童への手立て】 友達の意見を参考にし、伝える方法を見つけられるようにする。
4 再構築・検証	・班に分かれて、伝える方法の工夫を考える。	○ICTを使って、班の考えを共有する。 ・出た意見を尊重し合いながら、考えを出させる。 ・実現可能かどうかの視点を与えたり、その効果を再度確認したりする。		
5 次回の予定	・次回の予定を知る。	・次回は、自分が伝えたいことを決定し、具体的に発表の準備を進めていくことを知らせる。		
6 振り返り	・本時で学んだことや気づいたことをワークシートに書く。			

- 4 めざす振り返り
夜久野の良さを伝える方法を定めることができよかった。次は、発表に向けて準備を進めていきたい。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

社会科 学習指導案

第4学年 令和6年2月2日 第5校時（4年教室） 指導者：山田 智子

単元の概要

単元名・教材名	「健康なくらしを守る仕事—ごみのしよりと活用—」	
単元目標	<p>・ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう協力して進められていることや、地域の人々の健康な生活環境の維持と向上に役立っていることを見学・調査したり、地図や各種資料で調べたりして理解するとともに、処理に携わる人々の苦労や工夫・協力に着目して、ごみの処理のための事業の様子をとらえ、その事業が果たす役割について、調べたことや考えたことを表現できるようにする。</p>	
評価規準	知識・技能	<p>・ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効活用ができるよう協力して進められていることや、地域の人々の健康な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、見学・調査したり、地図や各種資料で調べたりして、まとめる技能を身につけることができる。</p>
	思考・判断・表現	<p>・ごみの処理の仕組みや再利用、県内外のごみの処理にか携わる人々の苦労や工夫・協力に着目して、ごみの処理のための事業の様子をとらえ、その事業が果たす役割について、調べたことや考えたことを表現する力を育てることができる。</p>
	主体的に学習に取り組む態度	<p>・ごみを処理する事業などについて、学習問題などの解決に向けて意欲的に追求するとともに、これまでの学習を振り返り、地域社会の一員としての意識をもち、ごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。</p>
単元指導計画	<p>〈全13時間〉</p> <p>第1次【つかむ】 情報収集・課題設定・仮説構築</p> <p>第1時：家庭からでるごみの量について調べることにより、ごみ処理に対する関心を高める</p> <p>第2時：家庭や学校から出されるごみやごみの出し方を話し合い、ごみ処理について考える（本時）</p> <p>問い：出されたごみはどのように集められ、処理されるのだろうか？</p>	
	<p>第2次【調べる】 仮説構築・情報収集・検証</p> <p>第1・2時：ごみの収集に携わる人の苦労や工夫をごみステーションを観察したり、ごみの収集方法を聞いたりして調べる。</p> <p>第3・4時：集められたごみがどこで処理されているのか調べる。</p> <p>第5・6時：環境パークでの作業を見学する。</p> <p>第7時：環境パークでの作業を見学して分かったことや考えたことを話し合う。</p> <p>第8時：さらに知りたいこと、調べたいことを出し合い調べる。</p> <p>問い：たくさんのごみを減らすにはどうしたらよいのだろうか？</p>	
	<p>第3次【まとめる・ひろげる】 アウトプット</p> <p>第1時：ごみを減らす工夫や埋め立て地を長く使う工夫、府や市、地域が協力していることについて調べ話し合う。</p> <p>第2・3時：ごみを減らす取り組みについて調べ、自分にできるごみを減らす方法を具体的に考え発表する。</p>	

本時の学習指導について

1 本時の目標

家庭から出されるごみの分別について話し合い、ごみの処理の仕方について予想を立てることができる。

2 参観・研究のポイント

事前に家庭でのごみの量や種類について一人一人が調べておくことで、課題意識をもちやすいようにする。
 問いに対する予想を立てることで、学習の見通しをもちやすいようにする。

3 本時の展開 (2/13)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 前時の学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返る。 本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 福知山市や、日本中でたくさんのごみが出されていることを思い出させる。 		
本時のめあて：ごみの分別をしよう				
2 課題分析 情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 家庭から出されるごみを分別する。 学校で出たごみを分別する。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べてきた「1週間のゴミ調べ」からどんなごみが出されたかを出し合わせる。 福知山市の分別表を使い、分別させる。 ごみは種類に分けて出されることをおさえる。 [学習用語] 分別 資源ごみ ごみを出すことについて、他にも知っていることや、気づいたことがあれば出させる。 学校で出たごみを写真に撮っておき、学校でもいろいろな種類のごみが出ていることを実感させる。 	ワークシート 福知山市ごみ分別表 学校で出たごみの写真	家庭からいろいろなごみが出されていることを知り、出されたごみの処理について予想を立てている。【主体的に学習に取り組む態度】 〈発言・ノート〉 <十分満足できる状況> ごみの処理について、ゴミの種類別に予想を立てている。
3 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールを知る。 			<努力を要する児童への支援> これまでの生活経験や、町中にごみがあふれていないことから想像させる。
問い：出されたごみはどのように集められ、処理されるのだろうか				
4 仮説構築	<ul style="list-style-type: none"> 問いに対する答えを予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家や学校から出されたごみがどうなるのかごみの種類別に予想させる。 		
5 ふり返り	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習で分かったこと、疑問に思ったこと、調べてみたいことなどを書かせる。 		

4 めざすふり返り

家から出たごみは、燃やすごみ、資源ごみ、燃やさないごみに分別して出されることが分かりました。プラスチックごみはパンの袋等、中をきれいに洗わないと燃やさないごみになることも分かりました。ごみを出した後、ごみ収集の車で集めることは知っているけれど、その後どうなるか分からないので調べてみたいと思いました。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

生活単元学習指導案

あおぞら学級 令和6年2月2日 第5校時（調理室） 指導者：大町 しのぶ

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名		育てた野菜や花を変身させよう
単元目標		花や野菜の育て方、調理の仕方、染め方の仕方の流れが分かり、見通しをもって主体的に活動に取り組み、それらの活動を楽しんですることができる。
評価規準	知識・技能	・育てた野菜を使って、調理をしたり染め物をしたりすることができる。
	思考・判断・表現	・手順を見通して計画したり、実習後にまとめたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・自ら調理や染め物の課題に取り組もうとしている。
単元指導計	〈全42時間〉 問い：育てた野菜や花はどんなふうに変身するのだろうか。	
	第1次（1～10時間）【ピーマンやナスを変身させよう。】 課題設定・情報収集・検証・アウトプット	
	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や花を育てて、調理をしたり染め物をしたりする流れを知り、活動の見通しをもつ。 ・苗を植えて観察し、観察したことを絵や文でまとめる。 ・育てた野菜で調理学習の計画を立て、調理をする。 ・育てた野菜で染め物をする計画を立て、草木染めをする。 ・学習の振り返りとまとめをする。 	
	第2次（11～20時間）【育てたマリーゴールドを変身させよう。】 情報収集・検証・アウトプット	
	<ul style="list-style-type: none"> ・種を捲いたり、世話をしたりする手順について確認する。 ・マリーゴールドの種を捲いて観察し、観察したことを絵や文でまとめる。 ・染め物の絞りの形や色を予想し計画を立てる。 課題設定 ・マリーゴールドで草木染めをする。 ・学習の振り返りとまとめをする。 	
第3次（21～38時間）【育てたサツマイモを変身させよう。】 情報収集・検証・アウトプット		
<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の苗を挿したり、世話をしたりする手順について確認する。 ・サツマイモの苗を挿して観察し、観察したことを絵や文でまとめる。 ・サツマイモの収穫をし、「サツマイモパーティー」や1年生と交流学習の計画を立てる。 ・サツマイモパーティーや1年生と調理学習をする。サツマイモの皮を保存する。 ・学習の振り返りとまとめをする。 ・染め物の絞りの形や色を予測し計画を立てる。 課題設定 ・サツマイモの皮で草木染めをする。（本時） ・学習を振り返りまとめる。 		
第4次（39～42時間）【展示会を開く。】 課題分析・検証・アウトプット		
<ul style="list-style-type: none"> ・展示会の計画を立てる。 ・草木染めの展示会を開く。 ・1年間のまとめをする。 		

本時の学習指導について

- 1 本時の目標 育てた野菜の皮を使って草木染めをすることができる。
- 2 参観・研究のポイント
野菜の素材を活かしてその色合いを楽しみながら、模様を工夫して染め物に取り組んでいる。
- 3 本時の展開 (37 / 42)

指導内容	学習活動	・ 指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 前時までの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの作業をICT機器を使って振り返るとともに本時の作業を確認させ、見直しをもって活動できるように配慮する。 ・本時のめあてを知る。 		大型モニター 手順表 タブレット	
2 本時のめあて	本時のめあて：育てたサツマイモの皮を使って草木染めをしよう。			
3 課題分析 仮説構築	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな色に染まるのか予測する。 ・絞りの方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を写真や大型モニターで振り返らせる。 ・作品を見て振り返らせる。 	考案したデザイン画 サツマイモの皮	サツマイモの皮を使って、工夫し染め物を作ることができる。(5年) 【知識・技能】 (行動) 指導者の支援を受けながらサツマイモの皮を使って、染め物を作ることができる。(6年) 【知識・技能】 (行動)
4 検証	<ul style="list-style-type: none"> ・絞りを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビー玉や小石、洗濯ばさみなどさまざまな材料を提示し選ばせる。 ・工夫して絞りをいれるように声掛けをする。(5年) ・絞りを入れる位置を確認させる。指導者と一緒に小石やビー玉を輪ゴムで止めさせる。(6年) 	ハンカチ 輪ゴム ビー玉 割りばし せんたくばさみ 石	
5 アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を見ながら染め物をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・染め液の中にハンカチを浸し、ムラにならないように、さえ箸でゆっくり押さえるように促す。 ・布を切らないように丁寧に輪ゴムを切らせる。(5年) ・指導者の支援を受けながら輪ゴムを切らせる。(6年) 		
6 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品の感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・染めあがったハンカチの色や絞りについて感じたことを発表させる。 ・工夫したところや好きなところを発表させる。友達の良いところも発表させる。 		
7 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して気づいたことを記入し、発表させる。 ・お互いの頑張りを認め合い、達成感をもたせる。 		
4 めざす振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・育てた野菜の皮を使って「どんな色に染まるのか。」「どんな模様ができるのか。」予測したり、絞りを工夫したりしてきれいに染めることができた。細かい作業を、最後までやりとげることができた。 			

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

家庭科 学習指導案

第5学年 令和6年2月2日 第5校時（5年教室） 指導者：松村 華

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名		暖かく快適に過ごす着方
単元目標		衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の暖かく快適に過ごす着方について考え、工夫する。
評価規準	知識・技能	・衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解している。
	思考・判断・表現	・日常着の快適な着方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けようとしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・家族の一員として、生活をよりよくしようと、衣服の着用について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、実践しようとしている。
単元指導計画	〈全3時間〉	
	<p>第1時【暖かい着方の特徴に気づく】 課題把握・課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服には様々な形、色、素材があることを知る。 ・衣服の働きについて考え、暖かい着方について関心を持つ。 ・衣服の主な特徴や暖かい着方の特徴に関心を持ち、課題を設定する。 	
	<p>第2時【衣服の働きを知る】 情報収集・課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱を逃がさない重ね着の保温性について確認する。 ・衣服の保健衛生上（給食時や掃除時）、生活活動上（体育時、通学時、就寝時）などの働きについてまとめる。 ・暖かく快適な着方と衣服の主な働きについて理解し、場面に応じた課題を設定する。 <p style="text-align: center;">問い 場面に応じた着方を考えよう</p>	
<p>第3時（本時）【気候や場所に応じた暖かい着方を工夫する】 検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「野外活動に合う着方を考えよう」「スキー場での服装を考えよう」など課題を確認する。 ・課題に応じた気温や天気、衣服の特徴から適切な服装を考える。 ・考えたことを発表、交流する。 		

本時の学習指導について

1 本時の目標

季節や状況に応じた日常着の暖かく快適に過ごす着方について考え、工夫することができる。

2 参観・研究のポイント

- ・グループごとに異なった課題に対する快適な衣服の着方を考える。
- ・考えたことをイラストや文にまとめて表現する。

3 本時の展開 (3/3)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容をを想起させる。 ・本時の内容の見通しを持たせる。 		
本時のめあて：課題に合った暖かい着方を工夫しよう。				
2 情報収集 仮説構築	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた服装を考える。 「冬のスキー場」 「カウントダウンイベント」 「北海道旅行」 「屋内スケートリンク」 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで、課題に応じた、時間や場所の状況を調べ、適切な暖かい服装を考えさせる。 ・グループで1つの服装を完成させ、色や形、配慮したことを書き込ませる。 	タブレット	季節や状況に応じた快適な着方について理解し、課題の解決に向けて取り組むことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】
3 検証・情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちで考えた服装や工夫を発表し、なぜそうしたかを説明させる。 ・発表を聞いて、疑問や新たな課題を出し合わせる。 	タブレット スクリーン	<タブレットシート・自己評価> <十分満足できる状況> 自分の考えをもとに情報を整理して、表現できる。 <努力を要する生徒への支援> 熱を逃がさない衣服の着方をもとに考えさせる。
4 検証	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じた課題を解決するポイントをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな疑問に対する納得解を考え、快適な着方をまとめさせる。 		
5 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体で学んだことを書く。 		

4 めざす振り返り

同じ冬でも場所や時間によって、服装を変えた方がいいことが分かった。体温を調節するためにも、着脱がしやすい服を重ね着するようにしていきたい。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

総合的な学習の時間 学習指導案

第6学年 令和6年2月2日(金) 第5校時(6年教室) 指導者:杉山 綾

単元(題材)の概要

単元(題材)名・教材名	夜久野 深め隊!	
単元目標	3年生から5年生で夜久野の特産物・伝統文化・文化財について学んできたことを振り返り、夜久野のよさについて学びを深めていく活動を通して、無形文化財「額田のダシ行事」を大切に思い活動する人たちやその活動内容について知り、地域との関わりの中で自分にできることを見つけ、自分たちにできる具体的な取組を考えることができるようにする。	
評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 額田のダシ行事と自分たちの生活との関わりを理解している。 額田のダシ行事の情報について多様な方法で調べ、比較・分類することができる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 額田のダシ行事に対する地域の方の思いを聞く活動を通して、問題を見付け出し、課題を明らかにしている。 額田のダシ行事の現状を捉えるために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた自己の取組をふり返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 額田のダシ行事のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と地域との関わりを見直そうとしている。
単元指導計画	<p>〈全 50 時間〉</p> <p>第1次(5時間)【「額田のダシ行事」について詳しく知ろう。】 情報収集・課題分析・課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の取組をふり返り、無形文化財に登録されている「額田のダシ行事」について学習していくことを知る。 額田のダシ行事について、額田のダシ振興会(大本さん)から話を聞く。(歴史・内容・願い) 聞かせていただいた話を整理し、疑問点や気になったことなどを調べる。 何が課題かを明らかにする。 <p>問い:額田のダシ行事を20年後の君たち世代にしっかり受け継ぐためにどうすればいいだろうか。</p> <p>第2次(27時間)</p> <p>【「額田のダシ行事」のために自分たちにできることを考えよう。】 仮説構築・アウトプット・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて自分たちにできる方策を考える。(めざす状態の設定) 考えたことが実現できそうか検証し、解決策を練り上げる。 ダシ作りに参加し、展示をする。 文化祭で解決策や額田まつりの魅力について発表する。 額田のまつりに参加し、アンケートをとる。 <p>第3次(18時間)【よりよい解決策を見付けよう!】 情報収集・仮説構築・検証・アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をもとに、ミッションの解決策を考える。 額田のダシ振興会の方の意見をもとに、解決策を見直す。 考え直したことが実現できそうか検証し、解決策を練り上げる。 新たな解決策を額田のダシ振興会の方に提案する。 学習のまとめをする。 	

本時の学習指導について

1 本時の目標

アイデアの実現に向けて検証し、解決策を練り上げることができる。

2 参観・研究のポイント

- ・実現に向けて、改善点を見つけたり、気付いたことや疑問に思ったことなどを発言したりしている。
- ・よりよいものになるように、新たな課題を解決しようとしている。

3 本時の展開 (18/27)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	・本時のめあてを知る。	・ゴールや目的を意識して参加できるように、前時までの流れと本時の流れを確認する。		
本時のねらい：アイデアの実現に向けて検証し、よりよいものに仕上げている。				
2 アイデア交流	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けたアイデアを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 予想されるアイデア ・体験できるような場所の設置 ・キャラクターによる宣伝 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに、解決策やその具体的内容を発表させる。 ・疑問に思ったことや新たな具体策も記録できるよう、メモを取らせる。 	大型モニターワークシート	アイデアの実現に向けて検証し、よりよい解決策になるよう意見を出したり考えたりしている。 【思考・判断・表現】〈ワークシート・発言〉
3 検証・情報収集	・疑問に思ったことやよりよくする方法などを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに疑問点や改善策を交流させる。 ・意見が出にくいときは、教師が疑問点を出すなどして働きかける。 	ワークシート	〈十分満足できる状況〉 他のグループの発表を聞き、根拠をもって自分の意見を述べている。
4 再構築	・解決策のブラッシュアップをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・改善点が出た班は、より具体的な解決策を考えさせる。 ・特にない班は、もっと知りたいことや新たに考えたいことを考えたり、他のグループの助言をさせたりする。 	ワークシート タブレット	〈努力を要する児童への支援〉 他のグループからでてきた疑問点や意見に対して友達と話し合わせる。
5 振り返り	・振り返りを書く。	・アイデアが実現可能かどうか、今後に必要なことはどんなものかを記入させる。	ワークシート	
6 次時の予告	・次の内容を知る。	・大本さんへの提案に向けて、仕上げをしていくことを伝える。		

4 めざす振り返り

アイデアの実現に向けて、解決策を発表することができた。友達の見聞を聞いて、〇〇についてもっと考えないといけないと分かった。ミッションクリアするために、友達の見聞を踏まえて改善策を今後も考えていきたい。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

社会科 学習指導案

第7学年 令和6年2月2日 第5校時（7年教室） 指導者：片山 裕樹

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名		アフリカ州—国際的な支援からの自立に向けて—
単元目標		アフリカ州の地域的特色や歴史等を理解し、よりよい社会の実現を目指し、課題解決するための方法を考える。
評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。 ・アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解している。
	思考・判断・表現	・アフリカ州において、地域で見られる地域的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体的に学習に取り組む態度	・アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。
単元指導計画	<p>〈全5時間〉</p> <p>第1時【アフリカ州の自然や歴史・文化などについて知る】 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の自然環境や文化、歴史について大まかに知る。 <p>第2時【アフリカの産業の特徴について知る。】 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカで特定の農作物が栽培されている理由を知る ・アフリカの産業の特色を、他の地域との関係に着目して考える。 <p>第3～4時【アフリカの課題について知る。】 情報収集 課題分析 仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紛争や内戦が続いている理由を考える。 ・人口増加が引き起こす問題について知る。 ・アフリカが自立するために必要なことを考える。 ・自分が考えた支援について考えの根拠となる資料を探す。 <p>第5時（本時）【アフリカ大陸が自立するために、どのような支援が必要か考える。】</p> <p>問い：アフリカ大陸が自立するために、どのような支援が必要だろうか。</p> <p>検証 アウトプット 仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた支援について多角的に検証する。 ・グループで交流する。 ・自分が考えた支援を企画にまとめねり上げる。 ・ポスターセッションをふまえて、再度仮説を立てる。 	

本時の学習指導について

1 本時の目標

アフリカ大陸が自立するための支援の仕方について考える。

2 参観・研究のポイント

- ・課題解決に向けて、話し合い活動に意欲的に取り組んでいる。
- ・既習事項をもとに、アフリカ大陸の課題を分析し、課題解決の方法を構築していく。

3 本時の展開 (5/5)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	・本時のめあてを知る。			
本時のめあて：支援のあり方について考えをまとめよう。				
2 解決策の検討	・グループで交流する。	・仮説検証をくり返させ、解決策をねり上げさせる。 ・ポスターセッションに向けて資料を整理させる。	ワークシート ・タブレット	アフリカ大陸が自立するために、様々な視点から考え、支援の仕方について考えることができる。
3 考えの交流	・ポスターセッションを行う。	・友達の見解に対して、いろいろな視点から考えさせ、疑問に思ったことは質問させる。	ワークシート ・タブレット	【主体的に学習に取り組む態度】 <ワークシート・自己評価>
4 仮説構築	・自分たちの解決策を振り返り、再度仮説を立てる。	・友達の見解も取り入れたり、改善したりしながら、再度仮説を立てさせる。	ワークシート	<十分満足できる状況> 複数の意見を聞き、自分の考えのもと、支援策を考えることができる。 <努力を要する生徒への支援> 他の助言をもらいに行くように促す。
5 ふり返し	・自己評価を書く。	・友達との交流や学習を通して気づいたことや学んだこと、ついて振り返らせる。		

4 めざすふり返し

- ・立てた仮説について、友達に質問されたことで、自分が考えていなかった視点から考えることができた。
- ・アフリカの農産物や鉱山資源をめぐって支援するのではなく、アフリカの人たちが自分たちで経済的に自立できるような支援が必要だと思った。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

理科 学習指導案

第8学年 令和6年2月2日 第5校時（8年教室） 指導者：中場 圭佑

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名		天気の変化と大気の動き
単元目標		身近な気象の観察、観測を通して、天気変化の規則性に気付かせるとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。
評価規準	知識・技能	・前線の通過と天気の変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解している。 ・科学的に探究するために必要な知識、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	・前線の通過と天気の変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、前線の通過と天気の変化についての規則性や関係性を見出して表現しているなど、科学的に探究している。
	主体的に学習に取り組む態度	・前線の通過と天気の変化に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
単元指導計画	<p>〈全8時間〉</p> <p>第1時【天気の変化を予想するために必要な情報】 課題分析・仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定する。問い：天気の変化を予想するためにはどんな情報が必要か ・既習事項や生活経験をもとに仮説を立てる。 <p>第2時【風がふくしくみ】 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高気圧と低気圧付近の大気の動きを調べ、天気との関係を見出す。 <p>第3時【連続的な気象要素の変化】 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の天気図をもとに気象要素の連続的な変化を調べる。 <p>第4時【気団と前線】 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温度が異なる空気の動きを調べ、前線の構造や気団の性質を見出す。 <p>第5時【前線の通過と天気の変化】 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前線の構造をもとに、前線の通過に伴う天気と気象要素の変化を見出す。 <p>第6時【地球規模での大気の動き】 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球規模での大気の動きは、どのようなしくみで生じているのかを理解する。 <p>第7時【天気の予想（本時）】 仮説構築・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気の変化を予想するために必要な情報について仮説を立てる。 ・仮説に基づき、連続した複数の天気図から、福知山市の天気を予想する。 <p>第8時【天気の変化を予想するために必要な情報】 アウトプット・課題分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福知山市の天気の予想とその交流を通して、天気の変化を予想するために必要な情報について考えを深める。 <p>⇒ 第4章の課題設定へ</p>	

本時の学習指導について

1 本時の目標

連続した複数の天気図をもとに、根拠をもって天気を予想することができる。

2 参観・研究のポイント

既習事項をもとに、対話的な活動により、天気を予想するために必要なデータを天気図から読み取り、根拠をもって天気を予想する過程。

3 本時の展開 (7/8)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	・本時のめあてを知る。			
本時のめあて：連続した複数の天気図をもとに、根拠をもって天気を予想しよう。				
2 既習事項の整理	・既習事項を整理する。	・本時までの学習履歴をもとに、既習事項を整理させる。	ワークシート	連続した複数の天気図をもとに、根拠をもって天気を予想することができる。【思考・判断・表現】 〈ワークシート・学習履歴〉 〈十分満足できる状況〉 収集した気象データを組み合わせ、予想した天気を、既習事項と関連付けながら根拠を持って説明している。 〈努力を要する生徒への支援〉 予想した理由を問い、既習事項と結び付けさせる。
3 仮説構築	・天気を予想するために必要な情報について、仮説を立てる。	・2で整理した既習事項をもとに、天気を予想するために必要な情報について仮説を立てさせる。	ワークシート	
4 検証	・天気図から必要な情報を見出し、天気予想の筋道を立てる。 ・天気を予想する。	・3の仮説に基づき天気図から情報を読み取らせ、天気を予想させる。 ・根拠を明確にするよう押さえる。	ワークシート	
5 資料作成	・資料を作成し、発表の準備をする。	○天気図データに気象要素等を書き込ませ、根拠を明確にするとともに視覚的にわかりやすい資料をつくるよう押さえる。	タブレット ワークシート	
6 次時の予告	・次時の予告を聞く。	・次時はポスターセッションによる発表を行うとともに、相互評価により仮説の検証を行うことを伝える。		
7 振り返り	・自己評価を書く。	○学習を通して気づいたことや学んだこと、新たに生まれた疑問等について振り返らせる。	タブレット	

4 めざす振り返り

これまで学習してきたことをもとに、天気を予想するために必要な情報について仮説を立て、天気図から翌日の天気を予想した。「どんな情報が必要なのか」を整理したうえで、様々な視点から天気図を読みこむことにより、根拠のあるより具体的な天気の予想をすることができた。一方で、まだ必要な情報があるかもしれないので、次時の発表を通してもう一度検証し、課題の解決を目指したい。

数学科 学習指導案

第9学年 令和6年2月2日 第5校時(9年教室) 指導者: 中谷 新一郎

単元(題材)の概要

単元(題材)名・教材名		相似な図形
単元目標		図形の相似について、観察、操作や実験などの活動を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しを持って論理的に考察し表現できるようにする。
評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解している。 相似の意味及び相似比と面積比や体積比との関係について理解している。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の相似条件などを基に図形の性質を論理的に確かめることができる。 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめることができる。 相似な図形の性質を具体的な場面で活用することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 相似の意味や、相似比と面積比や体積比の関係を考えようとしている。 図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を評価・改善しようとしている。
単元指導計画	<p>〈全7時間〉</p> <p>第1時【相似な図形の相似比と面積比の関係】情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 相似比が1:2の2つの四角形で、大きい四角形を切って、小さい四角形を4つつくることができるかどうかを考える。 相似な三角形について、相似比と面積比の関係を調べる。 <p>第2時【相似な多角形や円の相似比と面積比の関係】情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 相似な多角形や円について、相似比と面積比の関係を調べる。 相似な平面図形の相似比と面積比の関係を確認する。 <p>第3時【相似比と面積比の関係を利用による図形の求積】情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 相似な平面図形の相似比と面積比の関係を利用して、具体的な問題を解決する。 <p>第4時【相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係】情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 立体の相似の意味を知る。 相似な立体で、相似比と表面積の比や体積比の関係について調べる。 相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を確認する。 <p>第5時【相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の利用】情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 相似な立体の相似比と表面積の比や体積比の関係を利用して、具体的な問題を解決する。 <p>第6時(本時)【既習事項を活用した、大きさの異なる立体の比較・考察】課題分析・仮説構築</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問: 洋菓子屋さんの企画部長として、ケーキの売り上げを伸ばすためにどうすればよいだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 相似な図形の既習事項を使って、グループで企画案を考える。 適切な設定は何かを考え、仲間との交流で深めることができる。 資料や表現を工夫し、発表の準備をする。 <p>第7時【発表をもとにした自分の考えの深化】検証</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ活動で話し合った内容を整理し、聞き手にしっかりとアピールできる発表ができる。 各グループの発表を聞く中で、自分たちの考えをよりよいものにしようと考えを深める。 	

本時の学習指導について

1 本時の目標

既習事項を使って大きさの異なる立体を比較・考察することができる。

2 参観・研究のポイント

問題把握をして、仲間と意見を交わしながら既習事項を使って、よりよい選択をしてプレゼンテーションの準備をする。

3 本時の展開 (6/7)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 既習事項の確認	前時の学習内容の確認をする。	○生徒の振り返りから確認する。	タブレット	
2 本時のめあて	・本時のめあてを知る。	・問題を示しつつ説明する。		
本時のめあて：既習事項を使って大きさの異なる立体を比較・考察することができる。				
3 課題分析	・問いを把握し分析する。	・問題を解く上で必要なことは何か、使える性質は何かを予想しながら考える。	ワークシート	既習事項を使って大きさの異なる立体を比較・考察することができる。 【思考判断表現】 〈ワークシート・発表〉 〈十分満足できる状況〉 進んで自分の意見を出し仲間と交流する中で、自分の意見を客観視し、よりよいものにしようとしている。 〈努力を要する生徒への支援〉 習った性質などを確認しどのように使うか考えさせ、仲間の意見をもらうよう促す。
4 仮説構築	・グループで企画案を考える。	・グループ活動で対話的な活動をし、仲間や自分の意見を深める。 ・グループの活動に十分参加できない生徒がいないか、問題把握などで取り残された子がいないようグループで周知できているか確認する。	ワークシート	
5 発表準備	・グループの企画についてプレゼン資料をつくる。	・提示するデータや表現などを工夫して、より分かりやすくまとめさせる。	ワークシート タブレット	
6 ふり返り	・ノートのまとめと振り返りを書く。	・時間内で手応えのあった具体的事項を書かせる。	ノート	
7 次時の予告				

4 めざす振り返り

習ったことを使って考えることができた。以前学習したときは相似比と面積比で考えたけど、今度は体積比を使って考えることができた。班の人の意見から自分の考えていたアイデアをよくすることができた。

研究テーマ

地域と共にグローバル
 ～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

国語科 学習指導案

第9学年 指導者：大槻 裕彦

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名		「わたしを束ねないで」
単元目標		詩に込められた作者の思いを読み取り、これからの自分たちの生き方や可能性について考える。
評価規準	知識・技能	・詩を朗読し、言葉や表現上の特徴から、詩の持つイメージを捉えることができる。
	思考・判断・表現	・詩から作者の思いを捉え、それを踏まえた作品を作ることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	・自分の生き方を踏まえ、詩のイメージに合う言葉を選び、伝えようとしている。
単元指導計画	<全2時間> 第1時【詩の読解】 情報収集・課題分析 ・課題を設定する。 問い：どうすれば詩を自分のものにできるか。 ・朗読 ・言葉の理解、構成の理解	
	第2時（本時）【詩の続編を作る】 仮説構築・検証・アウトプット ・作者の思いの読解 ・詩の続編の作成 ・交流と相互評価	

本時の学習指導について

1 本時の目標

詩の続編を作り、吟味する。

2 参観・研究のポイント

- (1) 詩の続編を創作する中での試行錯誤。
- (2) 作品交流・相互評価をすることによる深まり。

3 本時の展開 (2 / 2)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	・本時のめあてを知る。	・例を示しつつ説明する。		
	本時のめあて：詩の続編を作り、吟味する。			
2 仮説構築	・作者が訴えることを理解する。	・改めて朗読させる。 ・詩のパターンを踏まえ、込められた心情を考えさせる。	ワークシート	詩の続編を作り、吟味する。 【思考・判断・表現】 〈ワークシート〉 〈十分満足できる状況〉 複数の視点を意識して、納得のいく詩を作る。 〈努力を要する生徒への支援〉 詩の構成に合わせて、短い言葉を入れさせる。
3 検証	・詩の第6連を創作する。	・文章構成と心情に注目させる。		
4 仮説の再検討	・それぞれが書いた文章をグループで読み合い、批評し合う。	・長所や改善すべき点を、話し合いで深めながら考えさせる。		
5 アウトプット	・批評を受けて、文章の推敲をする。	・直した部分は色を変えて書かせる。	ワークシート	
6 ふり返り	・詩と自分の生き方との関わりを考えてまとめる。	・どう生きたいのかを明らかに書かせる。		
	・自己評価を書く。	・時間内で手応えのあった具体的事項を書かせる。	自己評価表	

4 めざすふり返り

- ・詩の訴えには必ずしも共感できないが、気持ちの熱さは伝わり、自分の文にも生かされた。
- ・もっと前向きな文章にするように批評されたことが胸に落ち、改良できた。
- ・作者の束縛を嫌う気持ちが、第6連を作ることで、自分のことのように感じられた。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

音楽科 学習指導案

第7学年 指導者：藤田 遥名

題材の概要

題材名・教材名		日本に古くから伝わる音楽に親しもう！
題材目標		雅楽に使われている楽器の音色やリズム、速度などに親しみ、それらを生かして自分たちの音楽を作る活動を通して、我が国の郷土や伝統音楽のよさや特徴を味わう。
評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(鑑賞) ・創意工夫を生かした表現で音楽を作るために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身につけ、創作で表現している。(創作)
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や創作の学習活動に取り組もうとしている。
題材指導計画	〈全6時間〉	
	第1時【雅楽を鑑賞し、その音色や音楽の特徴を探る。】情報収集・課題設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に昔から伝わる音楽「雅楽」について知り、その音楽を聴いて日本音楽の特徴を捉える。 ・「越天楽」を鑑賞して、音色やリズム、速度などの特徴を聞き取る。 	
	第2時【「和」を感じる要素はどんなところにあるか考える】課題分析	
	<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラで演奏された「越天楽」と雅楽の楽器で演奏された「越天楽」を聴き比べ日本らしさや「和」を感じる要素はどんなところにあるか考える。 	
第3～5時(本時)【自分が感じた「和」の要素を活用しながら、創作表現をする。】仮説構築・検証		
<ul style="list-style-type: none"> ・日本らしさや「和」を感じる表現の仕方を試して、仮説を立てる。 ・日本らしさや「和」を感じられる要素として、速度や楽器の音色、旋律から感じとったことを創作表現で生かす。 		
第6時【授業のまとめをする】課題解決		
<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、「越天楽」を鑑賞し、捉えた特徴や感じ取ったことを生かして自分が思う「和」を感じる要素についてまとめる。 		

本時の学習指導について

1 本時の目標

自分が感じる「和」の要素を使って、創作表現を工夫しよう

2 参観・研究のポイント

(1) 自分が思う「和」の要素をもとに、創作活動をする事ができている。

(2) 創作をする中で新しい気づきを発見し、試行錯誤しながら創作活動をし、学習を深める事ができている。

3 本時の展開 (4/6)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	・本時のめあてを知る。			
本時のめあて：「和」を感じる要素を生かして、創作をしよう				
2 検証・情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が「和」を感じた要素を整理する。 ・リズムを創作する。 ・リズムに音をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が「和」を感じる要素をワークシートにまとめる。 ・速度やリズムなど、具体的にどのような音楽を作りたいかを書かせる。 ※音階は日本音階で統一させる。 ○ワークシートにリズムを記入させる。 ・四分の四拍子4小節のリズムを創作させる。 ○作ったリズムに音をつける。 ・音楽作成ソフトで実際に音を出しながら考えさせる。 ・教師が実際にピアノを弾き音楽のイメージを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ワークシート タブレット 	<ul style="list-style-type: none"> リズム及び音の重なり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。【知識】 〈観察、ワークシート〉 <十分満足できる状況> 自分が感じる「和」の要素を用いて創作活動ができている。 <努力を要する生徒への支援> どんな音楽にしたいのか、確認しながら進めさせる。
3 ふり返り	・振り返りを書く。	・授業で学んだこと、気づいたことを記入させる。		

4 めざすふり返り

・「和」の要素としてリズムは○○がよい思ったが、実際に創作したらリズムは○○のほうが良いと気づくことができた。次の時間では旋律の動きを○○のように変えて試してみたい。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

保健体育科 学習指導案

第7学年 指導者：中林 斉二

単元(題材)の概要

単元(題材)名・教材名		心身の機能の発達と心の健康
単元目標		心の健康について理解するとともに、心の健康に関わる事象や情報から自ら課題を発見し、解決する過程を通して、ストレスに対処する技能を身に付け、自他の健康の保持増進を図ることができる。
評価規準	知識・技能	心の健康について、理解することができるようにするとともに、ストレスに対処する技能を身に付けることができる。
	思考・判断・表現	心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて、解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝えあうことができる。
	主体的に学習に取り組む態度	欲求やストレスへの対処などの心の健康について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
単元指導計画	〈全5時間〉	
	第1時【心と身体の健康について】 課題分析・仮説構築	
	<ul style="list-style-type: none"> 精神と身体には密接な関係があり、互いに影響し合っていることを学ぶ。 課題を設定する。 問い：「心」の健康を保つためには、どうすれば良いだろうか 課題を解決するために、どのようなことを知る必要があるか考える。 	
	第2時【ストレスが与える心身への影響】 情報収集	
	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と心の健康との関わりについて学ぶ。 「ストレス」の意味や心身への影響を知る。 	
第3～4時【ストレス解消等の企画】(本時) 仮説構築・検証		
<ul style="list-style-type: none"> 検証で解決するための解決方法を考える。 グループで解決対策のシミュレーションと再考を繰り返し練り上げる。 解決策の企画をまとめる。 		
第5時【解決策の発表評価】 アウトプット・課題分析		
<ul style="list-style-type: none"> グループごとに解決策を発表し、相互評価する。 出された意見をもとに、自分たちの解決策をふり返る。 		

本時の学習指導について

1 本時の目標

心の健康を保つための適切なストレスの対処法を選んだり、考えたりすることができる。

2 参観・研究のポイント

(1) ストレスに対する対処法を考えたり、話し合ったりし、自分に合った方法に気づく。

3 本時の展開(4/5)

指導内容	学習活動	・ 指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	・ 本時のめあてを知る。	・ 例を示しながら説明する。		
本時のめあて：ストレスの適切な対処法を考えよう				
2 情報収集	・ 自分が「ストレス」を感じる物事は何か考える。 ・ 思いついたストレスへの対処法を考える。	・ 個人で思いつく物事と対処法を自由に書き出し(付箋)、出てきた言葉をグループで分類させる。 ・ 今までに最も困った、逃げ出したと思ったことについて、どのように対処したか思い出す。 ・ ストレスは人間にとってどんな存在であったか考える。	ワークシート ワークシート	ストレスの対処法を理解しそれをもとにより自分に合った適切な方法を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 〈ワークシート・自己評価〉 〈十分満足できる状況〉 複数の意見を求め、自分の考えのもと、情報を整理する。 〈努力を要する生徒への支援〉 仮説についても他の助言をもらいに行くように促す。
3 仮説構築	・ ストレスの対処法を考える。	・ グループで適切な処理の条件を考え、その条件に適した方法を考え出す。		
4 検証	・ 中学校最後の大会で、自分がミスをして負けた事例を考え、対処法を検証する。	・ 個人で考えグループで交流させる。 ・ 対処法のよさや課題をふり返らせより最適な対処方法を検討させる。		
5 ふり返り	・ 自己評価を書く。		ワークシート	

4 めざすふり返り

私は今回学習したことを生かして、部活動の大会や発表する場面では、自分に合った対処法を見つけながら前向きに考えていきたい。

研究テーマ

地域と共にグローバル

～ふるさとを誇りグローバルな視野を身に付けた児童生徒を育てる課題解決型学習の創造～

英語科 学習指導案

第8学年 指導者：畠中 美奈子

単元（題材）の概要

単元(題材)名・教材名		Step 4
単元目標		相手が知らないものについて、相手が分かるように説明することができる。
評価規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい説明の順序を理解している。 ・分かりやすい説明の順序の理解のもとに、日本のものについて簡単な語句や文などを用いて話す技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が知らないものについて、簡単な語句や文などを用いて即興で分かりやすく伝えることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・他者意識をもちながら伝えようとしている。
単元指導計画	<p>〈全2時間〉</p> <p>第1時【分かりやすい説明について知る。】 課題分析・情報収集・仮説構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定する。 <p>問い：海外の方の「これは何？」という疑問に相手が分かるように説明するにはどうすればよいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える要素について知る。 ・説明として分かりやすい順について知る。 ・海外からの旅行者が知りたいと思う日本独自のものを考える。 <p>第2時（本時）【相手が知らないものについて説明できる。】 検証・アウトプット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外からの旅行者が知りたいと思う日本独自のものを説明する。 ・さらに説明が分かりやすくなるためのアドバイスと修正を行う。 ・アドバイスをもとに再構築した説明を発表する。 	

本時の学習指導について

1 本時の目標

相手が知らないものについて、相手が分かるように説明することができる。

2 参観・研究のポイント

- (1) 分かりやすい順序を意識した説明になっている。
- (2) 生徒同士でのアドバイス・修正がどのようなもの。

3 本時の展開 (2/2)

指導内容	学習活動	指導上の留意点 ○ ICTの活用	教材 教具	評価規準
1 本時のめあて	・本時のめあてを知る。			
本時のめあて：海外からの旅行者の「これって何？」の疑問を解決しよう。				
2 復習	・伝える要素と説明として分かりやすい順序について復習する。	・例を示しながら説明する。	パワーポイント	相手が知らないものについて、相手が分かるように説明することができる。 【知識・技能】 〈発表〉 〈十分満足できる状況〉 既習の言語材料を用いて、分かりやすい順序で説明することができる。 〈努力を要する生徒への支援〉 どの順序で説明するのか、また既習の語句を教師と確認しながら説明する。
3 検証	・海外からの旅行者が知りたいと思う日本独自のものを説明する。	・前時の仮説をもとにグループ内で交流させる。 ・後でアドバイスすることを意識させ、友達の発表を聞かせる。	ワークシート・タブレット	
4 仮説の再構築 (相互評価)	・さらに説明が分かりやすくなるためのアドバイスと修正を行う。	・分かりやすく説明することを意識したアドバイスをグループ内でさせる。		
5 アウトプット	・アドバイスをもとに再構築した説明が AET に伝わるか全体で発表する。	・必要に応じて、教師からフィードバックをする。		
6 振り返り	・振り返りを書く。	・分かりやすい説明であったかという点に着目させ振り返りを書かせる。		

4 めざす振り返り

自分で考えた最初の説明で十分相手に伝わると思っていた。でも、友達からさらに分かりやすい表現の仕方や順序をアドバイスしてもらい、最終的に AET に分かりやすく伝えることができました。